

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名	
1032	総蛋白 (TP) 3A010-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	Biuret法	g/dL 6.5~8.3		自己免疫疾患 多発性骨髄腫 ネフローゼ症候群 重症肝障害	
0167	アルブミン (Alb) 3A015-0000-023-271	血清0.3	1	冷蔵		11 生I	BCG法	g/dL 3.8~5.3		腸吸収不良症候群 急性・亜急性肝炎 肝硬変 ネフローゼ症候群	
1098	A/G比 3A016-0000-023-919	血清0.3	1	冷蔵				計算法	1.3~2.2	TPとAlbより算出 Alb/(TP-Alb)	自己免疫疾患 慢性炎症性疾患 腸吸収不良症候群 肝障害
1034	蛋白分画 3A020-0000-023-232 3A020-0000-041-232 3A020-0000-001-232	血清0.4 髄液10 尿20	1 2 35	冷蔵		18 生I		セルロース・アセテート膜電気泳動法	(血清) % Alb : 60.8~71.8 α1 : 1.7~2.9 α2 : 5.7~9.5 β : 7.2~11.1 γ : 10.2~20.4 A/G : 1.6~2.6	髄液・尿の検体量は蛋白濃度が正常範囲の場合	急性炎症 慢性炎症 慢性肝障害 低栄養 ネフローゼ症候群 M蛋白血症
2495	尿中アルブミン定量 (マイクロアルブミン定量) 3A015-0000-001-061	尿5.0	2	冷蔵	1~2	105 尿糞	TIA法	mg/g・cre 30.0未満		糖尿病性腎症 妊娠中毒症 糸球体腎炎 ネフローゼ症候群	
2494	尿中アルブミン定性 3A015-0000-001-061	尿5.0	2	冷蔵		49 尿糞	TIA法	(-)			
2169	尿中トランスフェリン 5C060-0000-001-062	尿1.0	2	冷蔵 (1ヶ月)	3~5	107 尿糞	ラテックス凝集比濁法	mg/g・cre 1.00以下	新鮮尿を提出 ※02	糖尿病性腎症 慢性腎不全 ネフローゼ症候群	
4589	尿IV型コラーゲン 5C134-0000-006-023	尿5.0 (早朝第一尿)	64	冷蔵	4~10	194 尿糞	EIA法	μg/g・cre 40歳以上:4.9以下 30歳代:4.0以下	専用容器に必要量を採尿し、そのまま提出下さい。 ※01	糖尿病性腎症 肝硬変 肝細胞癌	

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
1051	BUN 尿素窒素 (UN) 3C025-0000-023-272	血清0.3	1	冷蔵	1~2	11 生I	ウレアーゼ GLDH法	mg/dL 8~20		脱水症 重症心不全 腎炎 尿毒症 ネフローゼ症候群 肝炎 肝硬変末期
0105	尿UN 3C025-0000-004-272	蓄尿5.0	2	冷蔵		11 生I		g/day 7~14		熱性疾患 悪性疾患 貧血 重症肝障害
1049	尿酸 (UA)	血清0.3	1	冷蔵		11 生I	酵素法	mg/dL M : 3.4~7.0 F : 2.4~7.0		痛風 白血病 高脂血症 腎不全 キサンチン尿症 肝硬変
0106	3C020-0000-023-271 3C020-0000-004-271	蓄尿5.0	2	冷蔵		11 生I		g/day 0.4~1.2		痛風 白血病 多発性骨髄腫 真性多血症 高脂血症
4964	L型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) 5C100-0000-001-052	部分尿2.0	2	冷蔵 (14日)	3~5	210 尿糞	CLEIA法	μg/gCr L-FABP換算値 8.4以下	注1 ※02	腎機能障害 糖尿病性腎症
1054	クレアチン	血清0.5	1	冷蔵	3~4	11 生I	酵素法	mg/dL 0.3~1.2		筋疾患 (筋ジストロフィー、多発性筋炎) ※01
1055	3C010-0000-023-271 3C010-0000-004-271	蓄尿1.0	2	冷蔵		11 生I		mg/day M : 170以下 F : 290以下		1日尿量記載してください ※01
1052	クレアチニン	血清0.5	1	冷蔵	1~2	11 生I	酵素法	mg/dL M : 0.60~1.10 F : 0.40~0.80		腎不全
1053	3C015-0000-023-271 3C015-0000-004-271	蓄尿5.0	2	冷蔵		11 生I		g/day 1~1.5		1日尿量記載してください
4859	推算GFRcreat (eGFRcreat) 8A065-0000-023-919						計算法※	mL/min/1.73m ² P23参照	血清クレアチニンと同時採血の場合のみ結果報告いたします。性別・年齢を明記。18歳未満は換算不可。	
1056	アンモニア (NH3) 3C040-0000-031-271	全血1.0採取 除蛋白上清1.5	6	(分離後)凍結	1~2	50 生I	比色法 (藤井・興田変法)	μg/dL 30~86	専用容器 (除蛋白液4mL入) に正確に1.0mLの血液を加え、十分に混和した後、遠心分離後の上清1.5mLを凍結し、ご提出ください。	肝性昏睡 肝性脳症 劇性肝炎 尿毒症 貧血

- ① 蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを併せて測定した場合は、主たるもの2つの所定点数を算定する。
 ② 区分番号「D001」尿中特殊物定性定量検査「8」のアルブミン定量(尿)、「9」のトランスフェリン(尿)及び「16」のIV型コラーゲン(尿)は、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時にを行った場合は、主たるもののみ算定する。
 ③ L型脂肪酸結合蛋白(L-FABP)(尿)は、原則として3月に1回に限り算定する。ただし、医学的な必要からそれ以上算定する場合においては、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

注1 凍結保存は避けて下さい。酸性蓄尿は、検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。室温保存ではデータ影響が認められるため、速やかに冷蔵保存にてご提出ください。

※日本腎臓学会より公表された日本人のeGFRcreatの推算式

男性: eGFRcreat (mL/min/1.73m²) = 194 × 血清クレアチニン値^{-1.094} × 年齢^{-0.287}

女性: eGFRcreat (mL/min/1.73m²) = 194 × 血清クレアチニン値^{-1.094} × 年齢^{-0.287} × 0.739



項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
0209	グルコース(血糖) <small>3D010-0000-022-272</small>	血漿0.3	17	冷蔵	1~2	11 生I	HK-UV法	mg/dL 60~109 (空腹時)	判断料は算定できない	糖尿病 甲状腺機能亢進症 急性膵炎 脳癌 慢性肝炎 糖尿病腎症
	糖負荷試験	血漿各0.3	17	冷蔵		200 生体検査料				
		尿各5.0	2	冷蔵						
3229	糖尿病分類	血漿各0.3	17	冷蔵	1~2	200 生体検査料	HK-UV法	次ページ参照	●空腹時血糖検体 ●糖負荷後120分検体 上記2本必要です。	糖尿病
3287	グリコアルブミン (GA) <small>3D055-0000-023-271</small>	血漿または血清0.5	13 1	冷蔵	2~3	55 生I	酵素法	% 11.6~16.4	※01	糖尿病 (約1~2週間前の) 血糖値を反映
0107	乳酸 <small>3E010-0000-031-271</small>	除蛋白上清0.5	4	(分離後)凍結	3~4	47 生I	酵素法	mg/dL 4.2~17.0	注 氷冷1.0N過塩素酸1.0mLに血液1.0mLを入れよく混和し除蛋白後15~60分静置し、遠心分離を行ってください。上清分離後凍結。 ※01	心不全 ショック 貧血 糖尿病 肝疾患
0108	ピルビン酸 <small>3E015-0000-031-271</small>	除蛋白上清0.5	4	(分離後)凍結		47 生I	酵素法	mg/dL 0.3~0.9		
3288	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5AG) <small>3D085-0000-023-271</small>	血清0.5	1	冷蔵	2~3	80 生I	比色法	μg/mL 14.0以上	※01	糖尿病(糖尿病コントロールの指標) 糖尿病性腎症
3233	抗GAD抗体 <small>5G340-0000-023-023</small>	血清0.3	1	冷蔵	3~5	134 生II	ELISA法	U/mL 5.0未満	※02	インスリン依存症 糖尿病 (IDDM)
2468	ヒアルロン酸 <small>3D080-0000-023-062</small>	血清0.5	1	冷蔵	2~3	184 生I	LA法	ng/mL 50.0以下	肝硬変の判定基準 130ng/mL以上 (50~130ng/mLの場合、肝の組織が疑われます) ※01	慢性肝炎 関節リウマチ

- ①ヘモグロビンA_{1c} (HbA_{1c})、グリコアルブミン又は1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5AG) のうちいずれかを同一月中に併せて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定できる。
- ②抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体 (抗GAD抗体) は、すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎、脳症の診断に用いた場合に算定できる。
- ③ヒアルロン酸はサンドイッチバインディングプロテインアッセイ法、¹²⁵Iによる競合法を用いたバインディングプロテインアッセイ法、LA法 (測定機器を用いるもの) 又はLBA法による。ただし本検査は慢性肝炎の患者に対して、慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。

【CKD (慢性腎臓病) の定義】

- ① 尿異常・画像診断・血液・病理で腎障害の存在が明らか、特に蛋白尿の存在 (0.15g/gCr以上) が重要
- ② 糸球体濾過量:GFR<60mL/min/1.73m²
- ①、②のいずれか、または両方が3ヶ月以上持続する。

【CKDの重症度分類】

原疾患	蛋白尿区分	A1	A2	A3
糖尿病	尿アルブミン定量 (mg/日)	正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
	尿アルブミン/Cr比 (mg/gCr)	30未満	30~299	300以上
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他	尿蛋白定量 (g/日)	正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
	尿蛋白/Cr比 (g/gCr)	0.15未満	0.15~0.49	0.50以上
GFR区分 (mL/分/1.73m ²)	G1 正常または高値	≥90		
	G2 正常または軽度低下	60~89		
	G3a 軽度~中程度低下	45~59		
	G3b 中程度~高度低下	30~44		
	G4 高度低下	15~29		
	G5 末期腎不全 (ESKD)	<15		

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑■のステージを基準に、黄■、オレンジ■、赤■の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。

(KDIGO CKD guideline 2012を日本人用に改変)



糖尿病の診断基準

空腹時血糖および75g経口糖負荷試験（OGTT）2時間値の判定基準

（静脈血漿値、mg/dL）

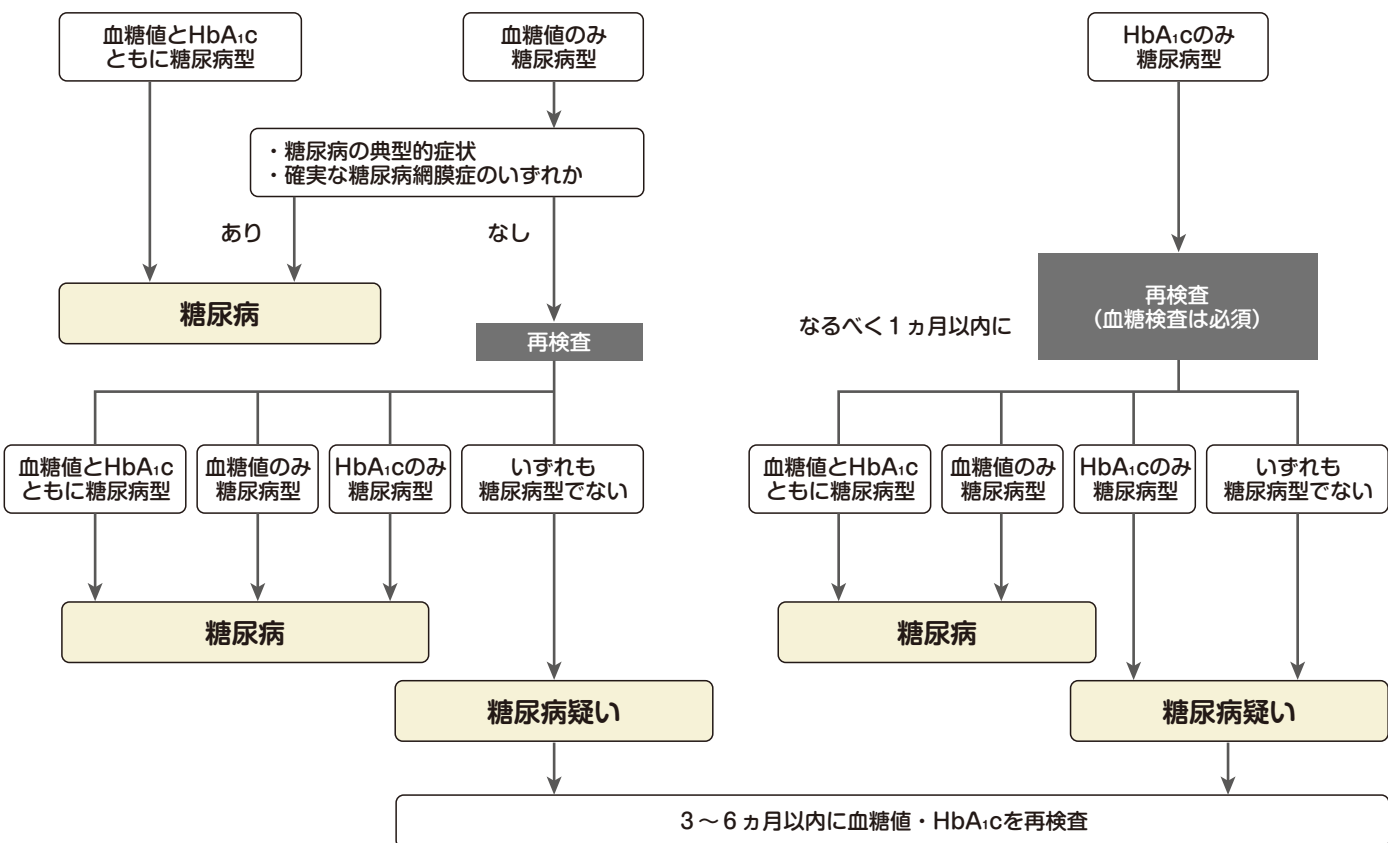
	正常域	糖尿病域
空腹時値	<110	≥126
75gOGTT 2時間値	<140	≥200
75gOGTTの判定	両者をみたまのものを正常型とする	
	いずれかをみたまのものを糖尿病型*とする	
	正常型にも糖尿病型にも属さないものを境界型とする。	

* 随時血糖値≥200mg/dL および HbA1c≥6.5% の場合も糖尿病型とみなす。

正常値であっても、1時間値が180mg/dL 以上の場合には、180mg/dL 未満のものに比べて糖尿病に悪化するリスクが高いので、境界型に準じた取り扱い(経過観察など)が必要である。また、空腹時血糖値 100~109mg/dL のものは空腹時血糖正常域のなかで正常高値と呼ぶ。

糖尿病の診断手順－臨床診断

糖尿病型：血糖値（空腹時≥126mg/dL、OGTT 2時間値≥200mg/dL、随時≥200mg/dLのいずれか）
HbA1c≥6.5%



糖尿病の臨床診断のフローチャート

引用：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告（国際標準化対応版）：糖尿病55（7）、2012年

生化学的検査

項目コード	検査項目	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要日数	実施料判断料	検査方法	基準値	提出条件・備考	検査目的および異常値を示す主な疾患名
5177	アミノ酸定量 (全種) <small>3C045-0000-022-204 3C045-0000-001-204</small>	血漿0.5	19	(分離後)凍結	5~6	1212 生II	HPLC法	下記参照	採血後直ちに遠心分離し、速やかに血漿を凍結してください。 ※06	先天性アミノ酸代謝異常症 発育障害 重症肝疾患 腎疾患
		尿0.5 (早朝2番尿) <small>3C047-0000-023-271</small>	2	凍結						
0459	BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比) <small>3C047-0000-023-271</small>	血清0.5	1	(分離後)凍結	3~4	288 生II	酵素法	チロシン (TYR): 53~104μmol/L 総分岐鎖アミノ酸 (BCAA): 379~688μmol/L BTR (総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比): 4.99~9.45	溶血は高値の影響があります	急性肝炎 慢性肝炎 肝硬変 ※01

① 区分番号「D010」特殊分析「4」の総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比 (BTR) は、酵素法による。

【アミノ酸およびアミノ化合物】

成分名	略号	血漿 (nmol/mL)	尿 (mmol/L)
タウリン	Tau	35.2~70.0	132.8~2045
ホスフォエタノールアミン	PEA	ND	5.9~76.6
アスパラギン酸	Asp	<3.2	<18.8
ハイドロキシプロリン	Hyp	5.4~18.2	<11.7
トレオニン	Thr	89.2~205.0	29.5~455.8
セリン	Ser	91.5~161.8	74.0~817.2
アスパラギン	Asn	40.8~76.5	24.2~316.9
グルタミン酸	Glu	10.8~44.4	5.1~84.6
グルタミン	Gln	488.2~733.1	93.7~1184
サルコシン	Sarco	ND	ND
α-アミノアシピニン酸	α-AAA	ND	10.1~72.4
プロリン	Pro	89.6~258.8	<11.5
グリシン	Gly	153.2~362.1	263.3~3386
アラニン	Ala	239.9~510.2	47.8~803.5
シトルリン	Cit	20.4~44.8	<21.7
α-アミノ-n-酪酸	α-AnBA	11.0~25.7	2.2~27.9
バリン	Val	158.4~287.7	8.0~78.9
シスチン	Cys-Cys	36.5~56.0	8.6~124.7
メチオニン	Met	19.2~32.7	2.6~37.8
シスタチオニン	Cystio	ND	3.4~50.1
イソロイシン	Ile	41.3~84.9	3.0~28.8
ロイシン	Leu	80.9~154.3	6.0~61.8
チロシン	Tyr	50.2~82.6	21.5~255.1
β-アラニン	β-Ala	<7.7	<56.9
フェニルアラニン	Phe	45.7~76.5	11.8~104.5
β-アミノイソ酪酸	BAIBA	<3.7	18.4~1695
ホモシスチン	Homocys	ND	ND
γ-アミノ酪酸	GABA	ND	ND
モノエタノールアミン	MEA	6.0~10.7	100.1~937.9
ハイドロキシリジン	Hyl	ND	<11.6
オルニチン	Orn	43.2~95.7	3.6~29.0
1-メチルヒスチジン	1-Me-His	<12.8	24.8~1575
ヒスチジン	His	67.9~97.1	200.6~2367
リジン	Lys	118.7~257.0	23.6~535.2
3-メチルヒスチジン	3-Me-His	2.9~6.8	81.4~607.3
トリプトファン	Trp	41.4~65.5	16.9~146.8
アンセリン	Ans	ND	<62.3
カルノシン	Carno	<6.3	2.1~33.0
アルギニン	Arg	46.0~121.7	3.4~47.8
アロイソロイシン	allo-1Ile	ND	ND
フィッシャー比 *1	-	2.31~4.29 *2	-

*1:フィッシャー比= (バリン+イソロイシン+ロイシン) ÷ (チロシン+フェニルアラニン)

*2:単位なし

ND:不検出

